

『全国学力・学習状況調査』の結果を公表します



文部科学省が、平成25年4月24日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を市民の皆さんにお知らせします。

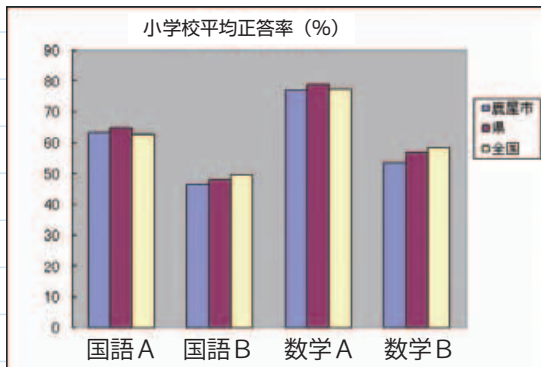
国語と算数（数学）について、主として「知識」に関する問題「A問題」と、主として「活用」に関する問題「B問題」を出題しています。また、生活調査や学習環境等に関する質問紙調査も実施しています。なお、本調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部であり、教育活動の一側面を調査したものです。

【問い合わせ】市学校教育課（6階）0994-31-1137

全国学力調査の結果について

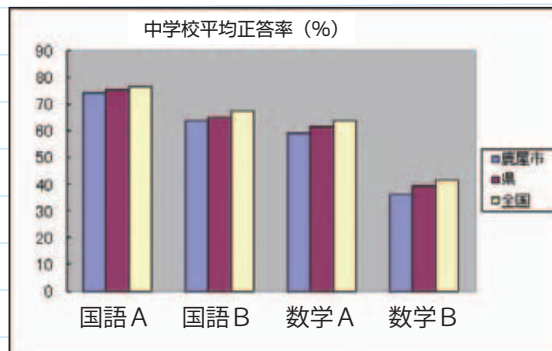
●小学校6年生

- 国語Aは、全国平均を上回っているものの、国語B、算数A・Bは全国平均を下回る状況です。



●中学校3年生

- 国語・数学のA・B問題ともに、全国平均を下回っている状況です。



Q どんな傾向や課題がみられますか？

- A 基礎的・基本的知識はほぼ身に付いているものの、身に付けた知識の活用を問うB問題が低い傾向です。特に中学校では、その傾向がより顕著になっています。

基礎的な知識・技能を活用して説明する・論述する力や書く力に課題が見られました。

Q 今後の取り組みは？

- A 教育委員会・各学校では、授業改善及びそのための教員の教科指導力の向上に取り組みます。
- 思考・判断・表現力を育成する学習指導法の改善

子どもたちがお互いに意見を交流し、考えを広げたり深めたりできる授業へ改善します。

例えば、図表やグラフ、教科書や参考資料の記述等から読み取ったことを自分の言葉で表現する活動、それらを基にグループや教室全体で意見を交流するなかで、自分の考えを見つめ直し、考えをまとめ直して表現する活動等に根気強く取り組む授業を実施します。

- 授業と連動した家庭学習の実践、見届けの徹底
- 予習－授業－復習の一連の流れで家庭学習の内容を工夫し、家庭と連携しながら、見届け指導を徹底します。

質問紙調査の結果について

Q どんな傾向がみられますか？

- A ○本市の児童生徒は地域活動によく参加している傾向が見られます。
- 本市の児童生徒は、家での学習時間は全国平均より多い傾向が見られます。
- △家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒は全国よりも少ない傾向が見られます。
- △小学生・中学生ともに、読書時間が少ない傾向が見られます。

Q 今後の取り組みは？

- A 自分で考えた学習をすること、学校や家庭で本を読むこと、この2つの習慣を付けることが大切です。
- 学校・家庭・地域が連携して、
- 家庭学習の仕方に関する指導と見届けを徹底します。
- 本に親しむ機会や読書環境の充実に努めます。